

平成 20 年度人材紹介事業の実態アンケート調査結果の概要

(平成 20 年度厚生労働省委託事業「民間紹介事業に実態と役割に関する調査研究」)

社団法人日本人材紹介事業協会において、「人材紹介事業の実態と役割に関する調査研究会」で実施したアンケート調査結果の概要は以下のとおりであった。

1 人材紹介事業を行っている企業の従業員数規模 (N=313)

【ポイント】 経営母体の企業は零細規模企業と大規模企業に二極化している。

企業規模	29 人未満	30～49 人	50～99 人	100 人以上
事業所数割合	44.6%	10.2%	8.9%	36.4%

2 紹介事業所の紹介担当者 (コンサルタント) 数 (N=313)

【ポイント】 1 事業所 5 人未満の事業所が半数を超えている。

担当者数	1～2 人	3～4 人	5～9 人	10～29 人	30～99 人	100 人以上	平均人数
事業所割合	27.6%	28.0%	21.0%	17.5%	4.7%	1.2%	9.1 人※

※ 平均値算出には不適切と思われる事業所 (一ヶ所) を除いた平均人数。

3 企業の兼業の有無と行う兼業の種類 (N=313)

【ポイント】 ・職業紹介専業は 14.4%。

・全体の 73.4% (兼業の 85.8%) は労働者派遣事業を兼業。

兼業の種類	兼業なし	兼業あり	労働者派遣 事業	業務請負 事業	コンサルテ ィング事業	教育・研修 事業	出版/求人 広告等事業
有無の割合	14.4%	85.6%	—	—	—	—	—
兼業の割合	—	(100.0%)	(85.8%)	(50.0%)	(35.4%)	(34.3%)	(7.8%)

4 職業紹介事業所の主な紹介形態 (N=313)

【ポイント】 「登録型」紹介を営む事業所が大多数。

主な紹介形態	登録型	サーチ型	再就職支援型	紹介予定派遣型
事業所数割合	80.2%	6.4%	1.7%	11.4%

5 1 紹介事業所当たり年間取扱実績、および担当者1人当たり平均実績※ (N=154)

【ポイント】 コンサルタント1人で年間12.2件就職決定させ、13,038.1千円の手数料収入を得ている。

	1事業所平均	担当者一人当たり平均
常用求人数	857.2人	97.8人
臨時・日雇求人延数	30.8人日	3.5人日
新規求職者数	1,438.0人	164.0人
常用就職件数	107.1件	12.2件
臨時・日雇就職延数	31.9人日	3.6人日
紹介手数料収入額	114,294.8千円	13,038.1千円

※ 平均値算出には不適切と思われる事業所（一ヶ所）を除いた平均人数。

6 取り扱った求職者の属性

【ポイント】 年齢階層別の状況で45歳以上年齢では求職時に比べ就職決定数の割合が低くなっている。

	区 分	求職申込時の割合		就職決定時の割合	
男女別の状況	男	59.3%	(N=173)	59.0%	(N=177)
	女	40.7%		41.0%	
在勤、失業の状況	在職中	56.4%	(N=160)	56.7%	(N=149)
	失業中	43.6%		43.3%	
年齢階層の状況	30歳未満	31.4%	(N=167)	35.1%	(N=171)
	30～44歳	43.2%		44.2%	
	45～59歳	20.9%		16.8%	
	60歳以上	4.5%		3.9%	
就職決定時の雇用形態	正社員	—		74.9%	(N=161)
	非正社員	—		19.3%	
	パート	—		5.8%	

8 職業紹介事業所運営費の用途別経費割合 (N=139)

【ポイント】 人件費率が高く、求人開拓のための経費支出は少なかった。

経費の用途	人件費	求人開拓費	求職者開拓費	事務所経費	その他の経費
経費割合	55.8%	8.7%	15.3%	14.4%	5.8%

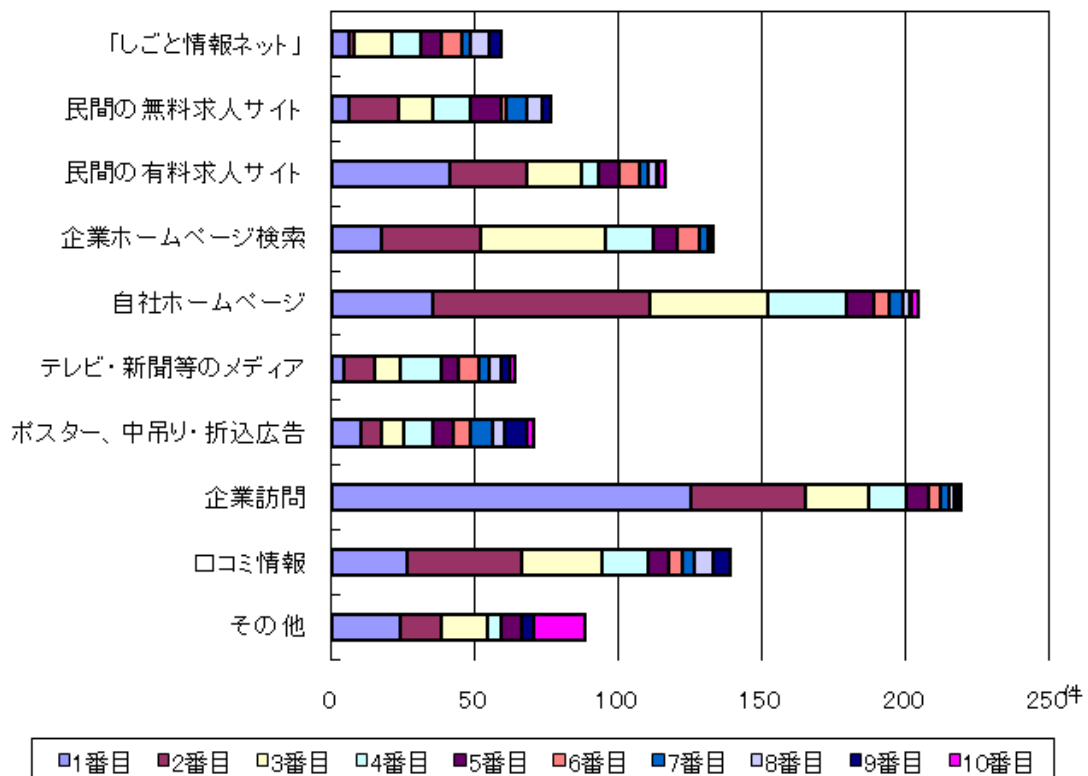
9 職業紹介に関する業務提携の状況 (N=313)

【ポイント】 業務提携を行う事業所は全体の約2/3で、平均10.6社と提携している。

	業務提携なし	業務提携あり	(提携先社数)	業務提携の目的				
				不得意分野カバー	求人情報確保	求職者情報確保	求人求職情報確保	その他
提携有無割合	35.6%	64.4%	(10.6) (N=186)	—	—	—	—	—
目的別割合	—	(100.0%)	—	37.8%	15.5%	15.0%	30.1%	1.6%

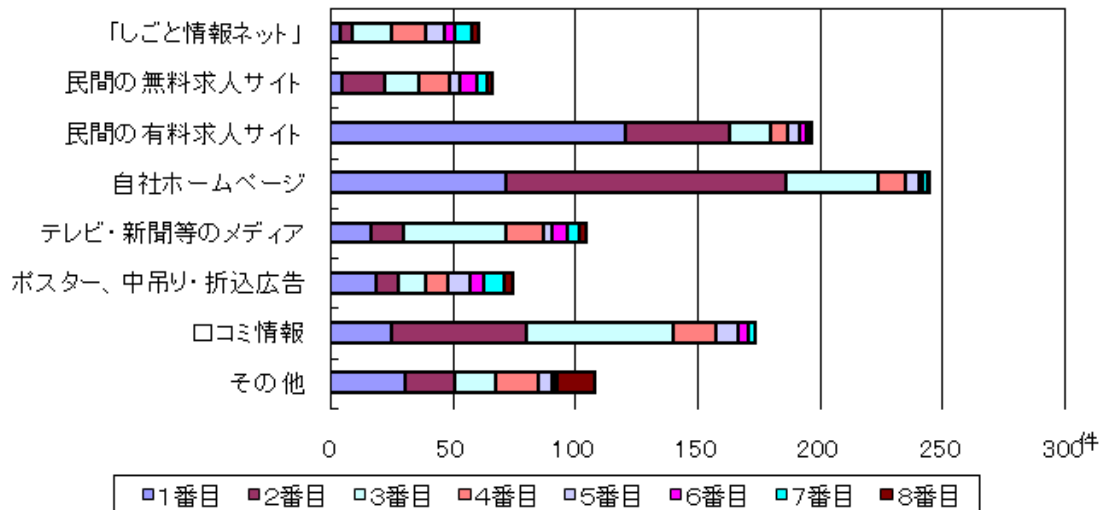
10 求人開拓の方法別の活用順位

【ポイント】 1番目に挙げたのは「企業訪問」が最も多く、2番目は「自社ホームページ」であった。なお、3番目「口コミ情報」、4番目「企業ホームページ検索」が多くなっており、求人開拓で「民間の有料求人サイト」利用は5番目の



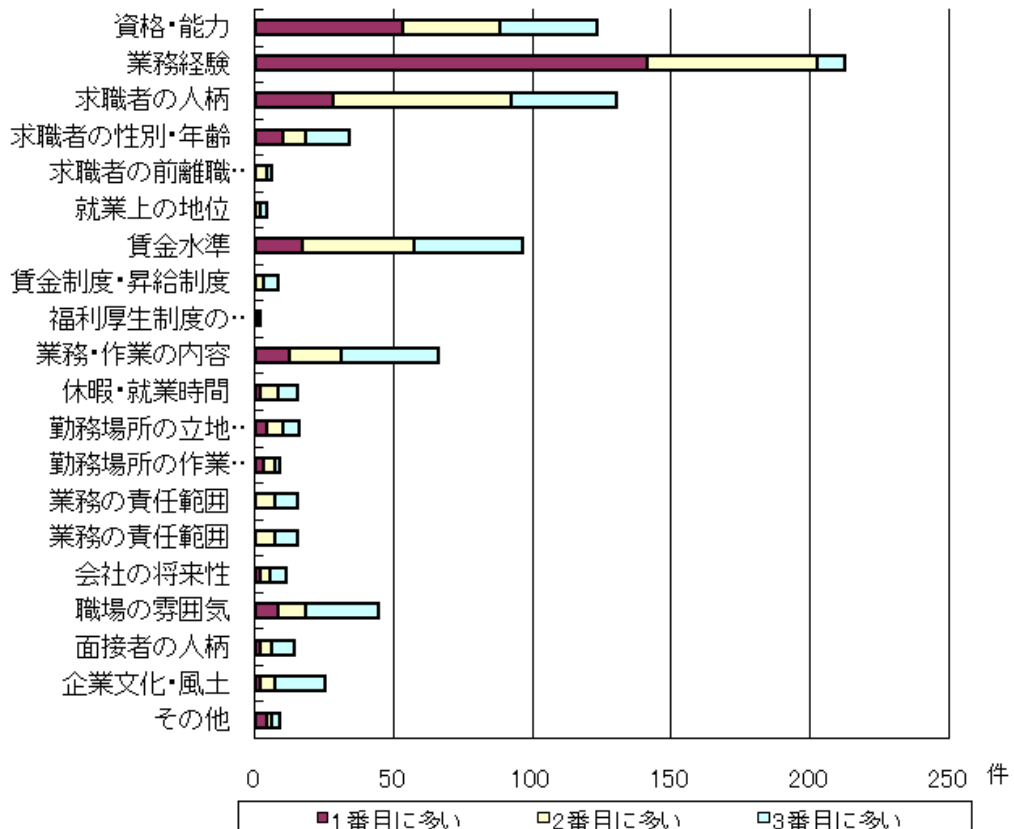
11 求職者開拓の方法別の活用順位

【ポイント】 1番目に挙げたのは「民間の有料求人サイト」で、2番目は「自社ホームページ」であった。なお全体で3番目に多かったのは「ロコミ情報」であった。



12 紹介のミスマッチ要因の順位

【ポイント】 1番目に挙げられたのは「業務経験」で、2番目で多かったのは「求職者の人柄」であった。全体として3番目に多かったのは「資格・能力」となっている。



以上